



文部科学省研究指定事業

「実社会との接点を重視した
課題解決型学習プログラムに係る実践研究」成果発表会

「本校の実践研究の取組について」

北海道登別青嶺高等学校

教諭 久井秀高、杉江和樹

令和5年（2023年）1月20日

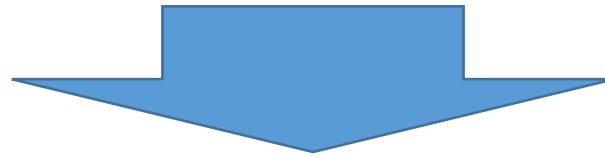
研究主題

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム(育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画)及び新科目「公共」の単元計画の開発

～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、
地域と連携した主権者教育の実践～

本校の課題（生徒の実態等から）

現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度、課題解決のために必要な公正な判断力等が十分に身に付いていない。



現実の社会を見据え、自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行するなどの学習活動を通じて、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を育成する必要がある。

本研究の方向性及び学習プログラムの概要①

公民科や家庭科、学校設定科目「**じもと学**」及び特別活動等において、生徒が現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育む。その際、国際性豊かで歴史の深い観光都市である登別市をはじめとする地域の恵まれた環境を生かして探究学習を設定し、**地域の人材や関係諸機関と連携**しながら研究を進める。

本研究の方向性及び学習プログラムの概要②

本研究の内容を整理するため、生徒の
高校3年間及び将来を見据え、育成を
目指す資質・能力をベースに整理した、**教科等横断的な学習プログラム（主権者教育の全体計画）** 及び新科目「**公共**」の**単元計画**を開発する。

研究のロードマップ

【資料】「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」に係るロードマップ

【①】：1学年 【②】：2学年 【③】：3学年 【将】：将来構想委員会 【公】：公民科 【サ】：道教委公民科サポートチーム 【市】：登別市役所・地元企業 【選】：登別市選挙管理委員会 【裁】：室蘭簡易裁判所 【司】：司法書士等 【大】：大学等

令和3年度（2021年度）					令和4年度（2022年度）				
月	生徒の主な取組	教員の主な取組	評価・検証方法等	関係機関との関わり	月	生徒の主な取組	教員の主な取組	評価・検証方法等	関係機関との関わり
4月			道教委の公民科担当指導主事による本研究に関する助言（オンラインで実施）。		4月	【①】公共「公共的な空間を作る私たち」	【将】主権者教育の全体計画の完成	1年目の成果と課題を踏まえ、今年度の取組の方向性について助言。	
5月		【将】主権者教育の全体計画の素案作成	【サ】事業に係る打合せ		5月	【①】公共「選択・判断の手掛かりとなる考え方」	・（4月）学校や地域などにおける生徒の自発的な活動や大項目で扱う事例や課題に関わる具体的な場面に触れ、集団の一員としての役割を果たす存在であることについて理解する。 ・（5月）架空の地域の再開発計画の資料から、課題となる事例を読み取り、個人や社会全体の幸福を重視する考え方、公正などの義務を重視する考え方に基づいて、開発を行うべきか否か、考察し、表現する。	【サ】事業に係る打合せ	
6月	【①】社会と私の関わりを考える（総探）	道教委公民科サポートチームと連携して、本研究の実施計画を基に生徒の3年間を見通した計画	【将】生徒の意識調査（事前）		6月	【①】社会と私の関わりを考える（総探）		【将】生徒の意識調査（事前）	
7月	【①】「政治参加の重要性」（現社）		生徒の社会参画の意識等について調査。		7月	【①】公共「主として法に関わる事項」		生徒の現実社会の諸課題解決に関する意識等について調査。	【司】公共の授業への参画
8月	【①】模擬選挙 ・事前に、政治に関わる意識等について学習。 ・登別市選挙管理委員会と連携して、模擬選挙を実施。		【選】模擬選挙への参画		8月	【①】模擬裁判 【①】公共「主として政治に関わる事項」		【公】授業ワークシート	【裁】模擬裁判への参画
9月	【①】「法や規範の意義及び役割」「司法制度の在り方」（現社） 【①】職業調べ	【公】教科研修 ・「総探」の学習成果を活用。 ・登別市や地元企業と連携して、地域課題の解決策を生徒同士で協議し提案。	【公】授業ワークシート 模擬選挙後の生徒の意識の変容等について把握（以下同じ）。	【司】現代社会の授業への参画	9月	【①】模擬選挙	【公】教科研修 ・公共の大項目では、法・政治・経済に関わる13の主題を主題を設定。 ・解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現する。	模擬裁判後の生徒の意識の変容等について把握（以下同じ）。	【選】模擬選挙への参画
10月	【①】地域課題を考えるワークショップ（現社・総探）			【市】ワークショップへの参画	10月	【①】公共「主として経済に関わる事項」 【②】就業体験		・登別市や地元企業と連携して、地域課題の解決策を生徒同士で協議し政策として市に提案。※これまでの公民科の学習の成果を活用	
11月	【①】「雇用、労働問題」（現社）	公開研究会	【公】授業ワークシート		11月				
12月	【①】模擬裁判 ・事前に司法制度の在り方等について学習。 ・裁判所と連携して、模擬裁判を実施。	【公】授業ワークシート	【裁】模擬裁判への参画		12月	【②】地域課題を考えるワークショップ（じもと学）	公開研究会	【公】授業ワークシート	【市】ワークショップへの参画
1月	【③】年金セミナー		生徒の意識調査（変容把握）		1月			生徒の意識調査（変容把握）	
2月		【将】主権者教育の全体計画の改善 【公】教科研修	本研究を通じて変容した生徒の意識等について調査。		2月	【①】公共「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」	【将】主権者教育の全体計画の改善 【公】教科研修	本研究を通じて変容した生徒の意識等について調査。	【大】公共の授業への参画
3月	【①】職業人講話	【将】中間報告書作成 【公】「公共」の指導と評価の計画作成		【大】職業人講話への参画	3月	・これまでの公共の学習の成果を活用して現代の諸課題の解決に向けて考察、構想し、妥当性や効果など自分の考えを説明、論述する。	【将】実施報告書作成 【公】「公共」の指導と評価の計画の改善		

主体性・協働性の育成

主権者として社会に参画する意識の涵養

課題解決能力の育成

令和3年度 研究1年目

令和3年度

月	対象	内 容
4月	1年次	地域研修①（総合的な探究の時間）
7月	1年次	意識調査①を実施
	1年次	政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅰ（現代社会）
8月	1年次	政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅱ（現代社会）
9月	1年次	政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅲ（現代社会、公開授業）
	全学年	模擬選挙（生徒会役員選挙）
10月	1年次	地域研修②（総合的な探究の時間）
	1年次	法や規範の意義及び役割、司法参加の意義（現代社会）
11月	1年次	地域研修②（総合的な探究の時間）発表
	1年次	法や規範の意義及び役割、司法参加の意義（現代社会） 公開研究会（現代社会「模擬裁判」）
12月	1年次	裁判所及び議会見学（現代社会）
2月	1年次	雇用と労働問題（現代社会） 意識調査②

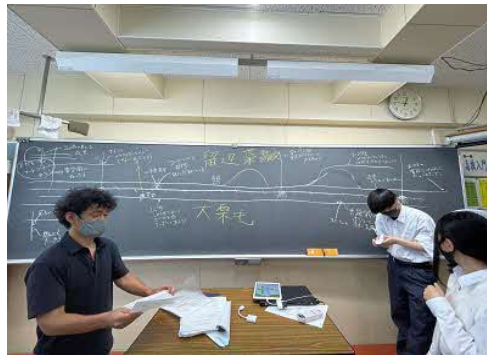
令和3年度の学習プログラム

- ① 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅰ【公民：2時間】
- ② 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅱ【公民：2時間、特別活動：1時間】
- ③ 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅲ【公民：2時間、総合的な探究の時間：3時間】
- ④ 法や規範の意義及び役割、司法参加の意義【公民：6時間】
- ⑤ 雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化【公民：4時間、総合的な探究の時間】
- ⑥ 学校設定科目「じもと学」の全体計画の確定【委員会等】

学習活動①

政治参加と公正な世論の形成・地方自治 I

- ・登別市職員及び地元広報誌の編集者とコラボレーションした授業を、1年「現代社会」で実施。
- ・市職員からの講義や、編集者から出された事前課題（地元のおすすめの飲食店情報の収集）をもとに、地域の現状や地域資源などを紹介したマップを作成。
- ・ガイドブック「のぼりべつテイクアウトグルメコレクション 2021」の作成を補助し、地域経済の活性化を図る取組に本校生が参画。



連携先：地元広報誌編集者
登別市役所

学習活動②

政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅱ

- ・ 公民科サポートチーム（道教委の公民科担当指導主事で構成）の協力を得ながら、政治参加の重要性に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施。
- ・ 研究授業の後日に、生徒会役員選挙及び投・開票を実施。



連携先：登別市選挙管理委員会

学習活動③

政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅲ

- ・ 10月に以下の3コースで研修
 - ①「登別の自然と町づくり」 ②「登別温泉の歴史と観光」
 - ③「防災教育と縄文文化」
- ・ 各コースで、SDG s の視点から持続可能な社会づくりを目指す手掛かりについて探究。
- ・ 各コースで、地域のまちづくりのアイデアを出し合い、グループ別に発表を実施。



学習活動④－1

法や規範の意義及び役割、司法参加の意義

- ・ 法や規範の意義及び役割、司法参加の意義にかかる単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施。
- ・ NHK for school「昔話法廷」を教材にした模擬裁判を通じて、市民が裁判に参加する際に求められる公平・公正な判断について、多面的・多角的に考察。



学習活動④－2

法や規範の意義及び役割、司法参加の意義

- ・ 札幌地方裁判所室蘭支部の裁判官と北海道みらい法律事務所の弁護士、本校校長・教員が、被疑者役などに扮した模擬裁判を実施。
- ・ 生徒が裁判員として考察したことをテキストマイニングやポートフォリオ等を活用して分析するとともに、単元の学習を通じて変容した、生徒の思考について分析した。



連携先：裁判官・弁護士

生徒の記述



- ★MQ: 社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正公平な判断とは何か。
★今日のねらい: 被告人を懲役1年にするか無罪とするかについて、法廷でのやり取りを多面的・多角的に考察し、公平・公正に判断し、事実を基に構想したことを、論拠をもって表現できる。

○登場人物

裁判官

検察官

弁護士

被告人

証人(店員)

証人(友達)

○法廷で出た証言や証言、自分の心に残ったことなどをメモしよう

名前 ねむむむむ

5/21 午後13時 2万円の時計 窃盗 無罪
 ねむむむむむ 友達に見せようとした
 ポケットに入れた ヲツケる
無罪の主張

社長 デパート

証人

めずらしい、気に入る
デザイン

めずまれた → ある

友達に見せよう

自分をつかまえた → はい

最初に会った → 「ケースから出る → 「じゃこれ」

手にして見ていた。電話で

エスカレーター 歩いていく 時計がなくなると

「おていないから」「これ」ポケットから出す。

事務室につれていった。「ちやうちやう」

2万円に1万円しかなかった 腕時計

「プレゼントする」

いそぎ足つやっくり

「見せる」

「買います」

忘れた

友達 証人

デパート

父にプレゼント見せよう

一緒に見ていた

探していた

デパート「1万円」 性格 おお 親のつ

自分「ちやう」 → かせない。知っていた。(所持金)

どうぼろだと思われ

懲役1年

無罪

○法廷で出された証言や証言、その他気になったことが、「懲役」にはたらくか、「無罪」にはたらくか、整理しよう

懲役にする

刑法第235条

- ・声とかけず勝手に持ち出す
- ・ポケットに入れて、いそぎ足で移動
- ・腕時計の値段に対し、所持金が足りていない

無罪にする

- ・めずむつもりはなく、友達に相談したかった
- ・めずらしいデザインが気に入り買うつもりだった

(1) 自分が考える、被告人の判決に○をつけよう

懲役にする 無罪にする

(2) その判決を選んだ理由を説明しよう

持ち出さなくても友達に見せる手段は他に
あると思うし、わざわざポケットに入れて外にでる
のは、十分な窃盗になると思ったから。

(3) 2度の模擬裁判と授業を振り返って、MQに対する自分の考えをまとめよう

どちらの立場にも立て、事実からなぜそうなのかが
そうなのかわかると考えた。公正にあつかわるために
し、かりした判断をする。誰かの意見にあわせるので
はなく、自分の意見を持ち、たうえで考えをたす。

テキストマイニング

学習活動④－3

法や規範の意義及び役割、司法参加の意義

- ・ 札幌地方裁判所室蘭支部に行き、実際の法廷を見学するとともに裁判所職員からの講義を受け、司法参加の意義について理解。
- ・ 登別市議会で模擬議会を実施し、生徒が「議員」として参加することで、政治参加の意義について理解。



連携先：札幌地方裁判所室蘭支部・登別市議会

学習活動⑤

雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化

- ・ 単元「主として経済に関わる事項」のまとめにおいて、「もし自分が登別or室蘭の市議会議員に立候補するとしたら」という視点に立ち、既習の知識や見方・考え方を活用した持続可能なまちづくりに関する政策を多角的・多面的に考察・構想。

学習活動⑥

学校設定科目「じもと学」の全体計画の確定

- ・学校設定科目「じもと学」について、将来構想委員会で全体計画及び学習指導計画を検討・作成。
- ・その際、登別市職員や関係団体と打合せを行い、関係各所と連携・協働を図りながら地域をベースとした探究学習について検討。

令和3年度 研究1年目の成果

生徒アンケートの結果

生徒の変容等①

主 な 質 問 項 目	生徒の回答の割合	
	1 回目 (7 月)	2 回目 (2 月)
将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う※肯定的な回答	50.9%	61.1%
私の社会参加により、変えて欲しい社会現象が少し変えられるかもしれないと思う※肯定的な回答	71.5%	82.3%
私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う※否定的な回答	14.3%	36.7%
選挙権が与えられたら投票に行こうと思う※肯定的な回答	79.5%	87.7%

全国平均
33.2%

全国平均
32.5%

全国平均
29.2%

本校の課題「現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度の育成」について一定の成果

研究課題「現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育成する」について、生徒の主体的に社会に参画する態度の育成に一定の成果

生徒の変容等②

模擬裁判における生徒のワークシートの記述の比較
「単元を貫く問い」に対する生徒の考察及び表現

＜生徒Aの1回目の記述＞

「加害者側・被害者側のどちらの立場も考えること」（原文のまま記載）

＜生徒Aの2回目の記述＞

「公正・公平な判断をするためには、それぞれの立場になって考えてみてどちらかにかたよりが無いように判断する。どちらか一方の主張だけではなく、両方の主張を聞き、状況証拠や証言をもとに考えることが大切である。ただし、裁判に参加しているのは人間なので間違いや嘘もあるかもしれないので、その判断は難しい。」（原文のまま記載）

＜分析＞指導と評価の一体化に向け、「単元を貫く問い」を適切に設定することにより、単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力を具現化するとともに、評価規準を明確化することができた。

○ 単元を貫く問い
「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」

令和 4 年度 研究 2 年目

令和4年度

月	実 施 内 容	
	公民科「公共」	その他
4	大項目A	地域研修（総合的な探究の時間）
5		「じもと学」ワークショップの開始（～12月随時）
6	大項目B	業界調べ、業界講話（総合的な探究の時間）
7・8	研究授業「主として法に関わる事項」	生活安全（消費者）教室（家庭）
9	模擬選挙、教科内研修	前期のまとめ
10	研究授業「主として経済に関わる事項」	「じもと学」成果発表会①
11		薬物乱用防止教室、就業体験
12	研究授業「主として経済に関わる事項」	主権者教育の全体計画の改善（将来構想委員会で検討）
1	事業実施後の意識調査の実施・分析	
2	教科内研修会、校内研修会	「じもと学」成果発表会②、交通安全講話（保健） 後期のまとめ
3	活動集録作成、報告書の作成・提出	

「公共」の取組

令和4年度の研究授業「公共」

- ① **大項目B「主として法に関わる事項」**
法や規範の意義及び役割、司法参加の意義
(8月22日実施)
- ② **大項目B「主として経済に関わる事項」**
職業選択
(10月31日実施)
- ③ **大項目B「主として経済に関わる事項」**
私たちと経済
(12月16日実施)

①大項目B「主として**法**に関わる事項」 法や規範の意義及び役割、司法参加の意義(8月22日実施)

- ・北海道みらい法律事務所の弁護士をゲストティーチャーとして招き、2021年の少年法改正について講義。
- ・「実名報道」に焦点化して、その意義について多面的・多角的な視野で考察・表現。

☆単元を貫く問い

「法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて、裁判で公平・公正に判断するために何が必要か」



② 大項目B「主として経済に関わる事項」 職業選択(10月31日実施)

- ・「2050年の日本を担うのはどの産業分野か」を単元の基軸となる問いとして設定。
- ・産業構造の変化には要因があることを理解することをテーマとして実施。
- ・「RESAS」(地域経済分析システム)を活用しながら、今後の日本を担う産業について考察。



③ 大項目B「主として経済に関わる事項」－1 私たちと経済(12月16日実施)

<概要>

- ・人口減少や労働力不足についての基本的な理解に基づき、登別の産業において活用できるAI等の技術について、グローバル化や持続可能な社会などの観点から評価し、登別の産業を発展させるための視点を身に付ける。
- ・単元の初回の授業で考察した「2050年の日本を担う産業」について、これまでの学習で身に付けた知識や視点を活用して主体的に振り返る。



③ 大項目B「主として**経済**に関わる事項」－2

私たちと経済(12月16日実施)

<指導上の工夫>

- 地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫
 - ・「RESAS」（地域経済分析システム）を活用して地域の産業別労働人口や売上額等のデータを収集し、年代別の推移について考察。
 - ・考察結果から、地域の将来を担う産業について、「地元らしさ」「グローバル化への対応」「持続可能性」の3つの視点をもとに見通しを立てた。
 - ・生徒が立てた産業に対する見通しについて、登別市役所職員5名から助言を得た。



連携先：登別市役所

学校設定科目 「じもと学」の取組

令和4年度の「じもと学」学習プログラム

- ① じもとワークⅠ 「市役所ワークショップ」(8)
- ② じもとワークⅡ 「じもとOJT」(6)
- ③ じもとワークⅡ 「市役所ワークショップ」(6)
- ④ じもとワークⅢ 「観光協会巡検・見学」(10)
- ⑤ じもとの自然 「キウシト湿原」(7)

じもとワークⅠ「市役所ワークショップ」(8)

- ・登別市役所の方をゲストティーチャーとして招き、講義とワークショップを実施。
- ・「本庁舎の建設～幌別地区のまちづくり」をテーマに新庁舎の配置や旧庁舎の跡地利活用についてディスカッション。
- ・環境問題、登別ブランドについても同じく実施。



連携先：登別市役所

じもとワークⅡ「じもとOJT」(6)

- ・登別市のじもとと企業（民間事業者）5社で見学や実習を実施。
- ・「わかさいも本舗」ではケーキ作りと商品開発を実施。



連携先：地元の民間事業者

Sweet potato pudding tart

さつまいもプリンタルト



登別本店限定

期間限定



登別青嶺高校の生徒たちが
“じもと学”で考案しました!

じもとワークⅡ「市役所ワークショップ°」(6)

- ・「防災」について市職員とNHK職員が講義。
- ・高校生にできる対策を考えAR(拡張現実)による津波浸水体験の防災教室を実施。



連携先：登別市役所・NHK

じもとワークⅡ「市役所ワークショップ°」(6)

- ・市役所防災担当による「避難所運営ゲーム（DOはぐ）」を実施。
- ・冬季の避難所運営についてカードを使って対応策を検討。



じもとワークⅢ「観光協会巡検・見学」(10)

- ・登別観光協会による講義を受け、外国人へのメッセージカードを作成。
- ・温泉街への巡検で、街の活性化に必要なコトとモノについて探究。

北海道登別ギフトボックス メッセージカード案



連携先：登別観光協会

じもとの自然 「キウシト湿原」(7)

- ・本校に隣接するキウシト湿原でフィールドワーク（コケの定植、外来種駆除、苔テラリウム作り）を実施。



連携先：NPO団体(キウシト湿原・登別)

成果の普及

令和３年度の道教委「授業改善セミナー」で研究
授業及び研究協議を実施

令和４年度「全道代表高等学校長研究協議会」で
主権者教育の実践例として紹介

令和４年度の道教委「高等学校教育課程編成・実
施の手引」（公民）へ実践事例を掲載

<http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/tebiki/r4/r4koumin.pdf>

<http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/tebiki/r4/douga/r4koumin.mp4>



- ・ 公民科のトピックとして作成
- ・ 本手引を基に、指導主事が教科指導訪問で指導助言

「主権者教育」の充実～文部科学省「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」北海道登別青嶺高等学校「公民」の取組（研究1年目）～

北海道登別青嶺高等学校では、令和3年度からの2年間、公民科を中心に本研究を行っており、ここでは、本校で取り組んでいる主権者教育の実践例の一部について示す。

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

新科目「公共」の実施を見据え、「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」を単元を貫く問いとして「法や規範の意義及び役割、司法参加の意義」に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施した。「NHK for school『昔話法廷』」を教材にした模擬裁判を通じて、裁判員に求められる公平・公正な判断について、多面的・多角的に考察させた。

札幌地方裁判所室蘭支部及び北海道みらい法律事務所と連携し、現職の裁判官や弁護士、校長及び教員が演じる模擬裁判を実施した。

模擬裁判を通じて「単元を貫く問い」として設定した「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」について、考察したことをワークシートで表現したり、テキストマイニングを活用して全体で共有したりすることで学習の深化を図った。



＜分析＞指導と評価の一体化に向け、「単元を貫く問い」を適切に設定することにより、単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力を具現化するとともに、評価規準を明確化することができた。

